



吉高人権だより

2022年 2月号

愛媛県立吉田高等学校 人権委員会発行

ボランティアへ行こう

機械建築工学科 杉町 龍典

人権意識が高い人と低い人の違いは何だろうか。それは、正しい知識を有しているかどうか、行動によって形作られたかどうかだと思う。正しい知識を有しているかどうかは、イメージがわきやすいだろう。間違った知識を持っている、そもそも知識がない人というのは、人権意識が低くなるのは当然である。行動によって形作られたかどうかについては、自分自身で行動したことで知識や経験を得たり、意識改革ができたかどうかである。この二つが揃わないと人権意識を高めることは難しいだろう。意識が変われば行動が変わるとよく言われるが、そもそも意識を変えることはとても難しい。行動を先に変えてしまう方がよっぽど簡単である。なぜなら、意識はハッキリ捉えることができないものだが、行動はハッキリとイメージができるからだ。学校などで人権についての授業や講演会が行われているが、講演を聞くことだけで意識を変えることができる人は限られる。関心を持って学習していないと知識の定着は難しく、数年後には学んだことすら覚えていないだろう。それくらい人の意識を変えることは難しい。

それでは、どうすればいいのか。まず行動するのはどうだろう。難しいことを考えず、その世界に飛び込もう。人権意識を高めるために私がお勧めするのは、障がい者の方々との触れ合いだ。私は高校生の夏休みは毎年、サマーボランティアという制度で障がい者施設や高齢者施設でボランティアをしていた。生徒会にも所属しており、何でもいいから人の為になるボランティアをしたいという思いからサマーボランティアに参加した。大学時代は障がい者問題研究会というサークルに所属しており、ボランティアをまとめる代表をやっていた。サークルに入ったきっかけは、1学年100人を超えるマンモスサークルだったので、単純に友達を増やしたいという思いで入部した。どちらも意識を変えてからの行動ではなく、とりあえず行動した結果、意識が変わり、多くの経験と知識を得ることができた。

ボランティアから学んだことはたくさんある。障がい者が日常で苦労していることや健常者では考えることのない悩みや葛藤を聞くことができた。障がい者にも色々なタイプの人っていて、考え方や生き方も人それぞれだと知った。よく一緒にお酒を飲みながら色々な話をさせてもらった。同じ席でお酒を飲んでいる時だけは、障

がい者と健常者の壁が無くなったように感じた。

最後にみなさんに伝えたいのは、「ボランティアへ行こう」。多くのボランティアは無料で行うことができる。無料で価値のある経験と知識が身に付くのは、かなりお得だとは思わないかい？

【人権・同和教育ホームルーム活動】



1月28日（金）に1、2年生のクラスで人権・同和教育ホームルーム活動が行われました。1年生はこの1年間、様々な人権問題を取り上げて学習してきましたが、3学期は同和問題を取り上げ、識字学級など同和問題解決への取組が、全ての人の人権を保障することにつながってきたことを学びました。2年生は、歴史学習のまとめとして戦後の同和問題解決への取組の歴史を取り上げ、行政の責任として被差別部落やその周辺地域の環境改善が働きかけられてきたこと、部落差別解消推進法が施行され、国民の差別意識がまだ課題として残り、その解消に教育が重要であることを改めて学びました。生徒の感想を紹介します。

（文字が読めないということについて）あまり自分で考えたことがない内容だったので、そういえばそうかと思いました。文字や言葉の意味を理解して表現できるようになったことで、豊かになるということが分かりました。

自分たちが同和問題や、部落差別をなくすための法律がなぜできたのかを知ることが必要だと思いました。SNS やインターネットにある誤った考えや情報と正しい情報を自分で選択していくことが大事であると思いました。小学校と中学校で学べた教科書が無償で提供されていたものも当たり前だと思わずに、昔の人たちの苦勞があって今の生活があるのだと思いました。

私が差別解消のためにできることは、正しい知識を身に付けることです。正しい知識があれば、自分が差別発言をすることも無く、他人がそのような発言をしていても、それを間違った発言と理解でき指摘することができます。